

氏 名	浦 岡 俊 夫
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 4093 号
学位授与の日付	平成18年3月24日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	EFFECTIVENESS OF GLYCEROL AS A SUBMUCOSAL INJECTION FOR EMR (内視鏡的粘膜切除術 (EMR) におけるグリセロールの 有用性)
論文審査委員	教授 田中 紀章 教授 小出 典男 助教授 那須 保友

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

内視鏡的粘膜切除術 (endoscopic mucosal resection; EMR) の局注液には、生理食塩水が一般的に使用されてきたが、これは等張液のため粘膜下膨留持続時間が短く、局注後からスネア絞扼までを手早く進めなければいけない難点がある。そこで、我々は、高張液であるグリセオールを選び、局注液としての有用性を明らかにする目的で、EMR の適応病変とされる大腸・側方発育型腫瘍(Laterally spreading tumor; LST)を対象として、生理食塩水との比較検討を臨床病理学的に行った。一括切除率は、グリセロール群で有意に高かった(63.6% > 48.7%, $p = 0.03$)。腫瘍径別では、特に 10-19mm の病変において特に高かった。偶発症である後出血や穿孔率には差はなかった。EMR の一括切除率が高く、安全性が保たれていることより、EMR の際には有用な局注液と思われる。実際、粘膜膨留形態が半球状で膨留の弾力性にも富み得るため、スネア絞扼を容易化している印象である。また、このグリセロールは安価であり、静脈注射液として使用されていることから安全性にも問題はない。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、内視鏡的粘膜切除術(endoscopic mucosal resection; EMR)に用いる局注液について、生理食塩水高張液であるグリセオールを選び、局注液としての有用性を明らかにする目的で行われた。EMR の適応病変とされる大腸・側方発育型腫瘍(Laterally spreading tumor; LST)を対象として行った。一括切除率は、グリセロール群で有意に高く(63.6% > 48.7%, $p=0.03$)、偶発症である後出血や穿孔率には差はなかった。グリセロールは安価であり、静脈注射液として使用されていることから安全性にも問題はなく、EMR の際には有用な局注液と思われた。本研究は消化器内視鏡技術の向上を明らかにしたもので、意義ある業績と認められる。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。